

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
38

2014

医療連携の更なる推進を目指して

DOCTOR'S VOICE 01 口腔ケアによる地域連携の推進

DOCTOR'S VOICE 02 新しい診療部門 形成外科センターを設置

DOCTOR'S VOICE 03 公衆衛生・健康医学 新任教授に聞く

DOCTOR'S VOICE 04 松山赤十字病院長に聞く



医学部附属病院紹介「歯科口腔外科」

健康はお口から —地域一体となった口腔ケアで健康を支えます—

歯科口腔外科 教授 浜川裕之

口腔の健康を保つことは生活や身体に重要な役割を果たします。国を挙げて口腔保健の推進に取り組むため、2011年に「歯科口腔保健の推進に関する法律」が交付されました。皆さんも自分で歯を磨くなどのケアをしていると思いますが、我々はプロフェッショナルとして患者さんの口腔ケアを行っています。たとえば、口の中の菌や汚れが気管や肺に入り込むことで、手術後に肺炎などの合併症を引き起こす場合があります。当院では手術や治療の前後に口腔ケアを行うことで、術後合併症の予防に取り組んでいます。現在は毎月80名程度の患者さんに対してケアを行っていますが、今後はさらにケアを行う患者さんを増やしていきます。

同時に、地域の歯科診療所と連携し、入院前と退院後に地域で口腔ケアを行うためのシステムづくりを進めています。主にがんの治療を受ける患者さんに対して、手術前にかかりつけの歯科診療所で口腔内の清掃を行い、術後も放射線治療や抗がん剤治療によって口腔内に炎症が起きた場合などに、地域でケアを行うことを目指しています。ただ、システムの整備だけでは十分ではありません。愛媛県の歯科医師会と協力しながら、歯科診療所の先生方へ向けたセミナーの開催などの啓発活動を行っています。医科と歯科の連携を円滑にするためには、歯科の先生方にも医科の基本的な知識が必要になってきます。今後も歯科の先生方と協力しながら、愛媛県の口腔保健の向上に取り組んでまいります。

**PROFILE**

はまかわひろゆき◎高知県出身。1977年大阪大学歯学部歯学科卒業。医学博士（愛媛大学）。1978年8月から当院へ。2000年より同職。専門は口腔外科学全般、ことに口腔癌、顎変形症。口腔外科を浸透させるため、関連学会を通じて活動中。趣味はゴルフ、スキー、フィッシング。モットーは、遊びに夢中になれるものは良い仕事ができる。

医学部附属病院紹介「形成外科センター」

各診療科と連携・協力する外科系専門科

形成外科センター長 中岡啓喜

平成26年1月、新たに形成外科センターが設置されました。当院では、昭和57年から皮膚科内で形成外科の診療を行っておりましたが、院内の各診療科との連携や患者さんの利便性を向上させるため、このたびセンターとして独自に活動を開始することになりました。現在は4名の形成外科専門医で診療にあたっています。

形成外科では、先天的あるいは後天的に身体に生じた組織の異常や欠損などに對して、手術やレーザーなどの治療技術を駆使し、機能のみならず整容的にもより正常で美しくすることを目的に治療を行っています。また、我々は形成外科疾患の治療だけではなく、他の診療科と密接に関わりながら様々な治療手技を患者さんに提供しています。このような各診療科との連携が我々の本領であり、外科系だけではなく内科系の診療科とも協力しながら柔軟かつ迅速に治療を行うことを目指しています。

今後は形成外科専門医の養成に力を入れていきます。愛媛県内外の各施設と協力しながら専門医を育成する体制の整備を進めますので、研修医あるいは医師の皆さんにぜひとも参加していただきたいと思います。意欲あふれる医師の参加により、院内での連携をさらに推進するとともに、病院外の施設とも連携できるように体制の強化を図っていきたいと考えています。これからも各診療科と協力体制をとりながら、患者さんにより良い医療を還元できるよう尽力してまいります。

**PROFILE**

なかおかひろき◎1983年愛媛大学医学部卒業、医学博士。愛媛大学医学部皮膚科准教授を経て2014年より同職。専門は形成外科全般、再建外科、マイクロサージャリー、皮膚悪性腫瘍治療、皮膚疾患のレーザー治療、血管腫・血管奇形の診断と治療。研究分野は形成外科学、皮膚科学。趣味は黙々と一人で泳ぐこと、スポーツ観戦。

新任教授に聞く

疫学研究拠点として予防医学の発展に貢献する

公衆衛生・健康医学 教授 三宅吉博

平成26年7月1日付で公衆衛生・健康医学教授を拝命いたしました。本講座では、各種疾患発症のリスク要因及び予防要因解明を目的とした疫学研究に取り組んでいます。つまり、病気にならない方法を探るというのが研究の中心になります。近年、日本国内において、科学的根拠に基づく医療の重要性が見直されてきています。科学的根拠、つまり疫学研究による成果を創出できるかということが、これから医学部にとって重大なポイントになると確信しております。

また、本学にて疫学研究の運用体制を確立することが私の使命です。横断的な臨床疫学研究拠点ができれば、より効率的、合理的に研究を行うことができるようになります。現在、古川准教授が愛媛県下の医療機関にご協力いただきながら、糖尿病患者を対象にした研究を取り組んでいます。この研究を、愛媛大学における臨床疫学研究のモデルケースとし、いずれは他の疾患についても応用できるよう発展させていきたいと考えています。

そして疫学者の育成はもとより、個人の考え方や経験ではなく、科学的な根拠に基づいた医療保健活動を実践できる人材の育成にも力を入れてまいります。今後、疫学研究の重要性はより一層増してきます。本講座が、疫学研究拠点として、予防医学の発展に貢献するべく尽力していきたいと考えています。



PROFILE

みやけよしひろ◎大阪府出身。1993年防衛医科大学校医学科卒業。医学博士（九州大学）。2014年7月より同職。研究分野は疫学。アレルギー疾患、口腔疾患、うつ、出生時低体重、発達、パーキンソン病等のリスク要因解明を第一義に複数の疫学研究プロジェクトを企画運営。目標は、アジアでトップクラスの疫学研究拠点となること。

愛媛大学医学部附属病院に期待すること

お互いの立場と役割を共通理解し、連携を強める

松山赤十字病院院長 横田英介

愛媛大学医学部附属病院に期待することは、これから愛媛県の医療を担う次世代の医師の育成です。初期・後期研修において引き続き中心的役割を担っていただきたいと思います。また近年、専門医志向の若い医師が増えています。私は、臨床だけではなく、一定期間大学で基礎・臨床研究に関わる経験は医師にとって非常に重要なことだと思います。当院も研修病院として医師の育成に携わっていますが、やはり大学病院を中心とした「リサーチマインドをもった専門医」の育成に期待しています。次に期待することは、施設・設備、人的に限られた市中病院では対応が難しい高度専門医療や先進医療の推進で、今後も更なる対応と支援をお願いします。

また、医療機関の機能分化が進みつつある中で、効率化、集約化を地域として考えなければならない領域も出てくると思います。それぞれの病院がお互いの立場・役割を理解し、お互いがお互いのためになるような形で協力していくことが重要であると考えます。当院と愛媛大学医学部附属病院でWin-Winの関係が築けるように、より一層協力体制を強化していきたいと思っています。

当院は、平成26年10月から新病院の建設に着手します。環境整備を進め、地域医療支援病院・災害拠点病院として、より質の高い専門医療や救急医療を提供できるよう尽力します。今後もご理解ご協力のほどよろしくお願いします。



PROFILE

よこたえいすけ◎佐賀県出身。1977年九州大学医学部卒業。1989年松山赤十字病院内科部長として赴任。副院長として医療安全・院内感染対策、職員特に臨床研修医の教育等に携わる。2014年4月に10代目の病院長となる。専門はリウマチ膠原病を含めた内科の診療。好きな言葉は5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

第1回愛媛研修医OSCE大会・医師臨床研修協議会を開催



平成26年9月21日(日)、当院地域医療支援センターにて、第1回目となる研修医OSCE大会を開催しました。OSCEとは模擬患者さんを相手に本番ながらに診療や治療を行い、評価者が診療手順等をチェックし、改善点を助言する試験です。OSCEの大半は医学生を対象としていますが、今回は愛媛県内各病院の研修医を対象に計10名の参加のもと開催しました。今後、参加研修医及

び指導医を更に増やし、「チーム愛媛」として愛媛県の臨床研修及び医療の充実に資していくことを考えています。

また、平成26年9月26日(金)、第11回医師臨床研修協議会を開催しました。本会議は、全国の国立大学附属病院の医師臨床研修を担当する医師と事務職員が参加し、医師臨床研修のあり方について検討するために設けられたもの

で、毎年開催されています。今年度は愛媛大学が幹事校となり開催しました。会議では、文部科学省高等教育局医学教育課小野賢志課長補佐、厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室松崎淳人課長補佐から特別講演があり、また「シミュレーション教育」「地域枠学生の卒業と今後」など3つのテーマについての協議がワールドカフェ方式により行われ、活発な意見交換が行われました。

総務課臨床研修チーム 国089-960-5098

オープンキャンパスを開催

平成26年8月8日(金)、医学部オープンキャンパスを開催しました。医学科では、模擬授業、各講座等の見学を行い、看護学科では、模擬授業、看護学演習体験等を行い、参加した高校生からは進学意欲向上につながったなどの意見がありました。

学務課教務チーム 国089-960-5175

モニター設置

平成26年11月、「アートホール」の一つとして、病院外来ホールにモニターを3台設置します。モニターでは、診療科の案内や病院の紹介、各種イベント情報を配信していますので、待ち時間等にご覧ください。

医療サービス課 国089-960-5181

Aiセンター



平成26年8月1日、高齢化や小児不審死の多発など、死因究明が課題となっている社会情勢に対応すべく、四国初となるAiセンターを設置しました。また、8月22日(金)、愛媛県及び警察本部等8機関連携のもと、全国初となる死因究明等推進協議会を発足させ、第1回目となる協議会を開催しました。本センターは、各機関と連携し、日々変化する社会情勢等に対応すべく、体制強化や人材育成等を推進させます。

総務課総務チーム 国089-960-5125

七夕コンサートを開催



平成26年7月28日(月)、外来ホールにて七夕行事として「ハワイアンショー」を開催しました。今回は「コーラル・ハワイアンズとフラのフィオビカケ」が出演してください、ハワイアンミュージックとフラダンスが披露されました。また、「ふるさと」などの唱歌の演奏もあり、患者さんも一緒に合唱しました。外来ホールに集まった患者さんは、南国気分に浸ることができ、リラックスしてショーを楽しんでいました。

医療サービス課福祉チーム
国089-960-5099

編集後記

秋の夜長、虫の音が心地よい季節となりました。表紙は今年9月に完成した新外来棟です。改修にあたり、みなさまには大変ご迷惑をおかけしていましたが、無事完成いたしました。

さて、本号では歯科口腔外科の連携状況、7月から公衆衛生学の教授に就任した三宅先生の新任教授としての意気込み、4月から新たに設置された形成外科センターの紹介、愛大病院に期待することについて松山赤十字病院の横田院長からお話をうかがっております。

また、この場をお借りして連携病院の皆様へご連絡申し上げます。平成27年3月7日(土)12時から、専門部会を順次開催するなど、松山全日空ホテルを会場に、第27回連携病院長会議を開催しますので、ご参加の程、よろしくお願い申し上げます。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙
—新外来棟の総合受付前—



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 国089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>